

谷芳紀ミラージュが波乱の展開となったSD1の戦いを制す!



「比較的パワー差が出にくいコースだけど、格上マシンに勝つのはやっぱり気持ちいいです」と勝利の喜びを語ったSD1クラス1位の谷芳紀選手。



各地に多大な被害をもたらした西日本豪雨のために順延となっていた2018年JAF四国ダートトライアル選手権の第5戦が8月12日、香川スポーツランドで開催された。今回も地元・徳島工業短期大学からの協賛を受けてのシリーズ戦。た

だ、第4戦でシリーズチャンピオンが確定したクラスもあり、当初よりエントリーは少なめ。さらに順延日がお盆の休み期間となったことで欠場を余儀なくされた選手も多かったようだ。今回、成立したのはSD1とSD2の2クラス。前戦まではN車両対象のクラスで競ってきた

選手達もチャンピオン争いが決着したこともあって今回はSD部門にエントリーした。N車両の選手がハイパワーなSD車両を相手にどう戦うか、いつもにはない見所が加わった。

梅雨が明けて以降、日本列島は猛暑日の連続。決戦当日も早朝から気温はぐんぐん上昇し、山間にある香川スポーツランドも朝9時の時点で気温は既に31℃。路面は乾燥しきって、このコース特有のパウダー状の土が、散水車の撒く水をあっという間に吸い取ってしまう。

「こうなれば埃との戦い、行って返す区間ではほとんど前が見えなくなるから」とコースを知り尽くすベテラン選手。パドック前の長いストレートでは、ハイパワーの4WD車ならギヤは4速に入りトップスピードは140km/hに迫る。速ければ速いほど、自らの立てた土煙で視界が悪くなり走り辛くなるのだから皮肉だ。また、アップダウンのある林道区間では、路面を覆う深い砂がクセモノで、掃けるまではラインの見極めが難しい。なお、当日はパドック前のフラットな広場を2度、林道区間を1度走る、1周半のコース設定。参加台数が少なかったことから、各車1本の慣熟走行が与えられた。



シリーズ4連勝中の梶田昌弘選手がSD2クラス1位。散水車の放水を味方につけ、厄介なパウダー状の路面をうまく攻略し、2分3秒500とぶっちぎりのタイムを叩き出した。



1.「N車両に負けたのは悔しいけど、シリーズチャンプは確定なので、良しとします」とSD1クラス2位の谷正史選手。2.異音を感じて途中棄権ながらも、2本目で挽回してSD2クラス2位入賞を果たした岩見文輝選手。3.SD1クラスの松原浩一郎選手は、谷正史選手のアドバイスでインを取って走るように心掛けて3位に。4.「2本目は全般的にミスなくうまくまとめられました。次に繋がる順位だと思います」とSD2クラス3位の松原宏選手。5.SD1クラスで4位の田川知明選手。6.和田龍輝選手はSD1クラスの5位。7.SD1クラスで6位の前川腕選手。8.小森敦文選手はSD1クラスの7位。9.SD2クラスで4位の上谷英男選手。10.豊田進也選手はSD2クラスの5位。

迎えた第1ヒート、案の定、コースの至る所で土煙が立ち上る。林道区間では、砂に足元をすくわれタイムが伸びない選手が目立った。

N1車両を含め全9台での戦いとなったSD1クラスは、シリーズチャンプの座がかかる谷正史選手が、徐々に現れ始めた硬質な路面をうまく捉えて2分11秒936の好タイムをマークし、1ヒートをトップで折り返す。2番手にはN1チャンプを決めている谷芳紀選手がつけ、同じくN1の田川知明選手が4WDのトラクションを活かして3番手に入った。

一方、SD2クラスの1ヒートは、同クラスのシリーズチャンピオンを確定させている梶田昌弘選手が今回もダントツの速さ。スペアカーでの参戦とは思えない走り、ただ1人、2分10秒を切る2分07秒118をマークし暫定首位。2番手時計はN2車両の松原宏選手で、梶田選手に遅れること約3.8秒。3番手にはシリーズ5番手の上谷英男選手がつけた。

表面を覆う土や砂が揚、その後に現れる硬質な路面をしっかりと捉えることができるかどうか勝負の分かれ目となった第2ヒート。SD1クラスは、2番手走者の谷芳紀選手が、谷正史選手のタイムをコンマ3秒上回る2分11秒

150を出して首位に立った。

「1本目のタイムでは勝てるとは思っていなかった」とスタート前に決意を新たにした谷正史選手は、林道へのアプローチでマシンのノーズをイン側の土手に引っ掛けまスカのリタイヤ。これにより谷芳紀選手の逆転Vが確定した。

「嬉しいですが、でも、どうせなら谷正史選手も走り切ってもらった上で、勝ったかった」と、試合後の谷芳紀選手。

そして3位は、2ヒートに入り5秒近くタイムを縮めた松原浩一郎選手の選手のミラージュが田川選手を抑えて逆転入賞。シリーズ3位につける徳島工業短期大学の和田龍輝選手は、今回は5位に終わった。

一方、SD2は2本目に入り、タイムをさらに3秒半縮めた梶田選手が他を圧倒する勝利を飾り、シリーズの連勝記録も5に伸ばした。

「勝因は、2本目の散水が多めで、埃があまり立たなかったこと。あれでアクセルを抜かずに走れました。スペアカーだけど、このクルマ（ランサー Evo. IV）は軽くて楽しい」と梶田選手。そして2位には、1ヒートを駆動系に違和感を感じて途中棄権した岩見文輝選手が、松原宏選手のタイムを抜いて浮上。これによって岩見選手も今シーズンの連続2位の記録を5回に伸ばしている。続く3位は、松原宏選手が1本目のタイムを更に2秒縮めて獲得、堂々の表彰台を獲得した。



SD1クラスの入賞者の皆さん。



SD2クラス入賞の皆さん。